

日本大学東北高等学校同窓会会報

桜采

 NIHON UNIV. TOHOKU DOUSOU
SINCE 1955

第9号

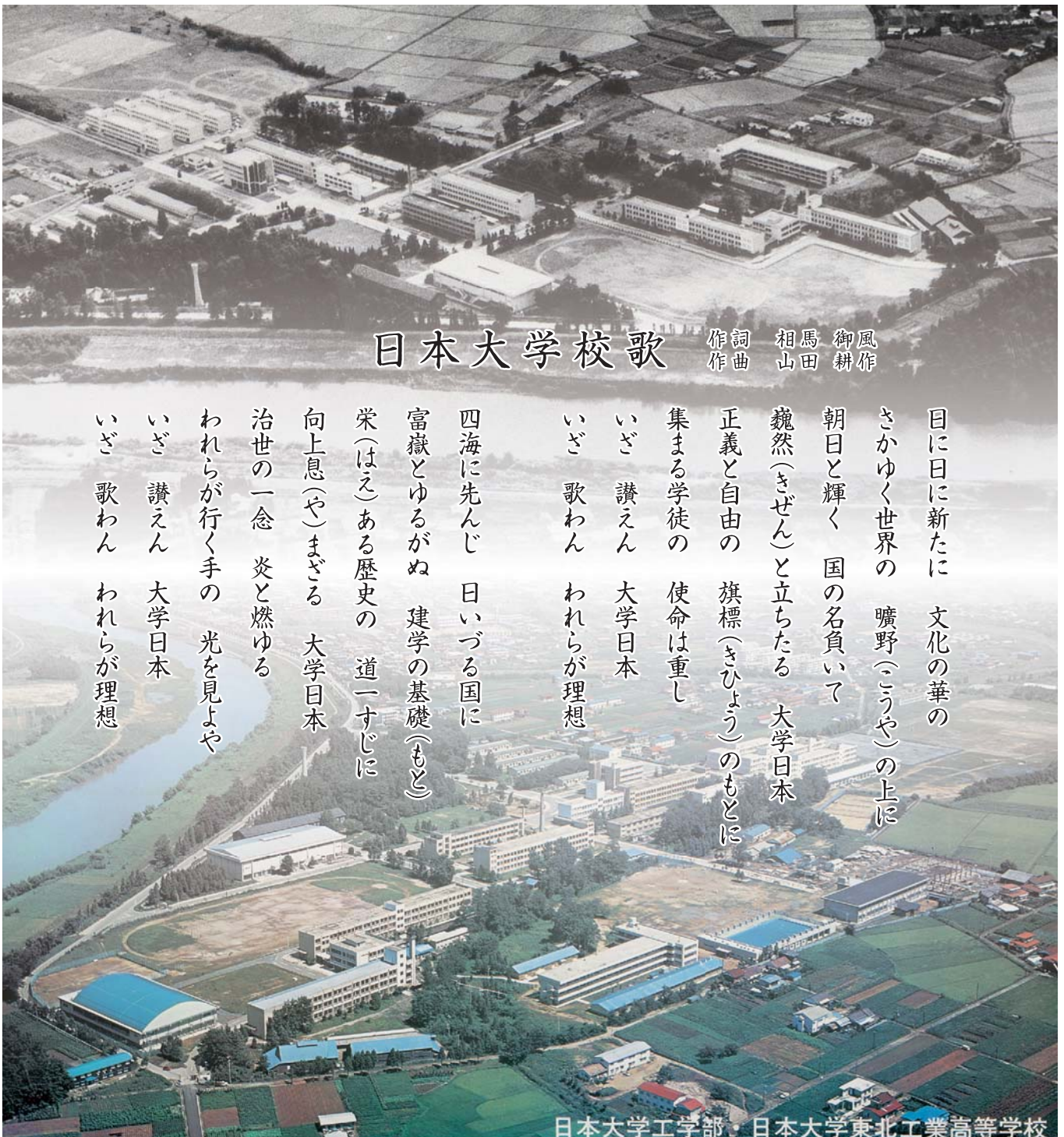


日本大学東北工業高等学校 第四校舎 写真提供柳沼力夫氏

発行日/2011年7月30日

発行/日本大学東北高等学校同窓会
郡山市田村町徳定字中河原1

編集/日本大学東北高等学校同窓会事務局
<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>



日本大学校歌

作詞 相馬 御風
作曲 山田 耕

日に日に新たに 文化の華の
 さかゆく世界の 曠野(こうや)の上に
 朝日と輝く 国の名負いて
 巍然(きぜん)と立ちたる 大学日本
 正義と自由の 旗標(きひょう)のもとに
 集まる学徒の 使命は重し
 いざ 讃えん 大学日本
 いざ 歌わん われらが理想

四海に先んじ 日いづる国に
 富嶽とゆるがぬ 建学の基礎(もと)
 栄(はえ)ある歴史の 道一すじに
 向上息(や)まざる 大学日本
 治世の一念 炎と燃ゆる
 われらが行く手の 光を見よや
 いざ 讃えん 大学日本
 いざ 歌わん われらが理想

日本大学工学部・日本大学東北工業高等学校

写真上昭和45年頃、写真下昭和47年頃の学校周辺 (郡山市田村町徳定上空より撮影)

会長あいさつ

同窓の絆

日本大学東北高等学校 同窓会会長
第15期卒 柳 沼 正 人



誰もが予想さえしなかった、3.11東日本大震災。合せて東電の原発事故。今もなお不安を抱きながらの日々ではありますが、ここに同窓会会報誌第9号（復刊2号）を発刊出来ましたことは、同窓生一人一人の絆と連帯感を強めるツールとして大きな力となることを信じてやみません。

昨年夏44年ぶりの「桜朶」復刊後、先輩方が母校を訪問され、青春時代の思い出に花に咲かせたとの報告や、県外在住の諸先輩からはお誉めのお言葉や励ましのお言葉を数多く頂戴しまして、誠にありがたく「同窓の絆」を深く感じ入った次第です。私もその後、忘れかけていた思いがけない同級生からの突然の電話で、6人の「ミニ同級会」を開くことが出来ました。その夜は、美味しいお酒と懐かしい思い出話して盛り上がり大変楽しい一夜を過ごしました。それらの方々とはその後も連絡を取り合い、高校生時代以上に結び付きが強くなっております。

ところで、昨年の夏は会報誌復刊と同時にホームページも立ち上げましたが、アクセスの件数も徐々に増加傾向にあり、同窓生の母校に対する関心の深さが伺えます。事務局の精力的なご努力に感謝するとともに、今後も数多くの同窓生の絆を深めるためより一層の活躍を期待する次第です。

最後に、今回の大震災の傷跡はあまりにも深く、その復興と原発事故の終息には相当の時間が掛ると思っております。是非身近な同級生にお声をかけて頂き、特に浜通りの同窓生の消息を取り合って頂きたくお願い申し上げます。また「会報誌桜朶」やホームページのことなども広めていただき、消息が分かり次第同窓会事務局に連絡を頂けます様お願い申し上げます。

今後も会員の皆様のご要望を賜りながら、同窓生の絆を強くして行けるよう努力して参りますので、ご支援を切にお願い申し上げます。



震災直後の一号館（煙突にひび） 煙突切除後の一号館（7月15日現在）

校長あいさつ

「3年目を迎えて」

日本大学東北高等学校 学校長
松本 幹 雄



同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。私も日大山形から赴任して3年目を迎えました。この間、同窓生の皆様には多大なるご支援をいただきまして深く感謝申し上げます。また、あらためまして東日本大震災で犠牲になられた方に深い哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。そして被災された方々には心からお見舞い申し上げます。

さて、今年度は異常な事態で始まりしました。3月11日に起こったマグニチュード9の大地震による東日本大震災の発生です。当日、学校は補習の生徒が学習しておりましたが、突然の大きな揺れと折から降りしきる横殴りの雪にただ震えるのみでした。その後、生徒たちの安全を確認し、無事家に送り届け、一段落したのは深夜になってしまいました。学校が被った被害は、古い実験棟（部室などで使用していた）が立ち入り禁止、そしてボイラーの煙突にヒビが入る、校舎のガラスが何箇所は割れる、壁のあちこちにヒビが入る、等で比較的軽微に済んだと思います。しかし、公共交通機関がストップした状況の中、生徒には当分の間、自宅待機を指示したものですから、年度末の諸行事は全て中止せざるを得なくなりました。入学式も1週間遅らせてやっと実施できました。今は平常通りの教育活動を実施しております。東電第1原発の事故から心配される放射線量についても、毎日グラウンド中央と教室で測定していますが、許容範囲内の数値で、安堵いたしております。なお、本校のホームページにその数値を発表しておりますのでご覧ください。

今春の卒生生の動向ですが、日本大学が200名、国公立が48名、他私立大学が261名、専門学校62名、就職12名という数でした。特に東北大に4名、早稲田2名、東京理科大5名、明治10名、青山学院大5名、立命館3名など難関大学にも合格し、就職の面でも福島県県警に2名合格しました。皆様の後輩たちがこのように活躍してくれています。また、新入生も500名と募集定員の450名を大幅に超えて入学してきました。このように活気が横溢する学園になっているのではと思っております。

ただ、気がかりな点もあります。それは、かつてのようなサムライが少なくなった、ということです。日本には250年余の伝統をもつ江戸時代に形成されたサムライ精神があります。彼らは自分の志を高く持ち、その実現のためには死をも恐れることがありませんでした。また、その行動にしても常に道の中央を歩き、たとえ雨が降っても走ったりしない、いわゆる愚直な男の美学がそこにはありました。本校にもかつてはこのようなサムライが多く存在したと思っておりますが、今は何事にもスマートで、失敗を恐れるあまりチャレンジ精神が希薄になった気がいたします。これはなんとしても是正する必要があると感じておりますので、折に触れて同窓生の皆様にもご協力を宜しくお願いいたします。

なつかしい 日大東北工業高校の 在校時代

工業化学科 第1期生
柳 沼 力 夫



○ 第1期生誕生！

中3の秋ごろ、郡山の日本大学に付属校として男子だけの工業高校（土木・建設・機械・電気・工業化学・普通の6学科）が新設されることを担任の先生から説明を受けました。若きエンジニアを夢見た柳沼少年は、小さな胸を膨らませて迷わず工業化学科を志望したのです。これが私と「日大東北」とのご縁の始まりでした。

幸いなことに受験はパスしましたが、何と志願者が定員の4倍だったことには驚きました。工業化学科は私を含め全52名。地元の須賀川一中からは、小中ともに仲良しで過ごした佐藤久男君と向山正英君の2人も入学しました。東北工高第1期生の誕生です。

○ 通学路の行き帰り、「ガンタラ橋」のこと…

クラスと同級生はほとんどが汽車通学です。東北本線組、磐越東西線組、水郡線組と、県内の東西南北の市町村から登校していました。安積永盛駅から学校までの道順は現在と同じですが、一つだけ違っているものがあります。それは阿武隈川に架かった、通称「ガンタラ橋」と呼ばれる木製の橋です。百何余りの欄干もない板張りの長大な橋です。もし現在でもあの橋が残っていたら、私は間違いなく「世界遺産」に登録します！

晴れた日、私たちは「ガタゴト」と音を立てながらその橋を渡りましたが、実はこの「ガンタラ」という下駄の音が橋の名の由来です。台風などの大雨の時はこの橋が無残にも流されてしまい大変でした。上流にある立派な御代田橋まで長距離遠足をするはめになるのですから。私はこの「ガンタラ橋」がとても好きでした。

○ 印象深い先生方との授業風景

初代校長は小林巖先生です。月曜日の朝礼では、甲高く透き通る美声で講話をしてくださいました。とても分かりやすく興味深いお話でした。当時、海外留学は難しい時代でしたが、先生はドイツ留学からの帰国後、大学で物理・数学・ドイツ語の教鞭をとられ、さらに琴の名手でもいらっ



ガンタラ橋 永盛方面に向かって測量する土木科生徒

しゃいました。一度だけ郡山市民会館でその演奏を聴く機会を得ましたが、とても感動したことを覚えております。

1年次の担任は眼鏡をかけた村上元一先生で、いつもニコニコされた優しい先生です。2年次の担任は石川守先生で、頭髪をリーゼントにまとめたスーツの良く似合う先生です。難しい化学の問題を易しく教えて下さいました。3年次の担任は高木昭先生で、背の高いスマートな先生です。大学を卒業されたばかりで、まるで兄貴のような先生でした。大学からお越しの印象深い先生では岩田先生を思い出します。有機化学を教えてくださいましたが、とてもゆったりとしたお話しぶり、スヤスヤ寝入る仲間もいる程でした。岩田先生とは逆に、声も大きく活気溢れる先生が宇野原先生です。身振り手振りも大きく、おまけに黒板の字までが踊っているようなエネルギー溢れる授業でした。そんな宇野原先生の授業が、よりによって繊細な「分析化学」の授業なので、おかしなものです。

○ 仲間たちとその活躍

工業化学科では、三瓶安夫君、久米弘祐君、吉田三代吉君などの郡山組が最も多く、彼らは元気のあるとても大人っぽい感じのする人達でした。また三瓶君はいつも腹ペコで、昼まで弁当がもたず、2校時の休み時間にはすっかり平らげていました。東北本線組には、自河から富永次男君、花摘常二君、泉崎から野崎貞夫君など遠距離通学者もいました。磐越東線組は多勢で、棚山善夫君、国分義郎君、柳沼三男君などですが、当時彼らから聞いた話では郡山駅での乗り換えは本数も少なく大変だったようです。

当時、創部間もないスピードスケート部の大躍進が新聞などで報道され、全校が沸き立ちました。福島県高校体育冬季大会で母校のヒーローとなったのは、工業化学科の高橋鉄太郎君、安藤明治君、建設科の吾妻英安君、諏江好君の4名です。高橋君は個人で見事優勝を果たし、続く団体戦でも優勝の栄冠を勝ち取りました。さらに高橋君と吾妻君は全国大会への出場を決めました。彼らの活躍は日大東北工高スケート部の伝統として後輩へ引き継がれました。

○ それから…

母校を卒業してから57年が過ぎましたが、その間に長男が母校の普通科を卒業いたしました。在学中は花里先生、大木先生をはじめ多くの先生方にご指導いただきました。我が家も三世代まで続くようにと願っております。

振り返ってみますと、高校生としての3年間、第二工学部（現工学部）学生としての4年間、数年のブランクの後に再び第二工学部で教員としての39年間、計46年間をこのキャンパスで過ごしました。私にとってここは、まさに「母なる大地」そのものです。また、現在は同窓会の須賀川支部で母校の発展と同窓生の親睦を深めようと知恵を出し合っております。

ところで、須賀川支部の仲間には機械科第2期卒で、前須賀川市長の相楽新平さんがおります。彼は平成9年から20年まで3期12年の長きにわたりご活躍されました。相楽さんだけでなく、本校OBには各界、各層で活躍される方が沢山いらっしゃいますが、これは、我々同窓生は言うに及ばず、母校の誇りです。

平成22年度

母校の様子 1年間のあゆみ

4月 April

- 7日(水) 入学式
- 8日(木) 対面式／着任式／始業式
- 9日(金) 校外オリエンテーション(1年～11日)
- 15日(木) 日本大学附属高等学校等標準学力テスト
- 28日(水) 遠足(2・3年)／進路講話・自転車安全教室(1年)

5月 May

- 1日(土) 後援会集会
- 6日(木) 全校集会
- 17日(月) 授業参観(第1回 ～19日)
- 25日(火) 1学期中間試験(～27日)

6月 June

- 1日(火) 衣替え／全校集会
- 8日(火) 工学部学科説明会(I3年理系)
- 11日(金) 進路ガイダンスⅦ(I2年)
- 28日(月) 1学期期末試験(～7/1)／桜蕾会役員会懇談会

7月 July

- 13日(火) 校内体育大会
- 17日(土) アカシャ祭(学内公開)
- 18日(日) アカシャ祭(一般公開)
- 20日(火) 終業式
- 21日(火) 夏季進学補習(前期 ～8/2)／オープンスクール(～27日)

9月 September

- 2日(火) 2学期始業式／服装指導／小論文模試(I・II3年)／成果テスト(II2・3年)／生徒会役員選挙告示
- 3日(金) 成果テスト(I1・2年)／センター試験出願指導(I3年希望者)
- 16日(木) 入試説明会(中学校教員対象)

10月 October

- 1日(金) 校内マラソン大会／全校集会／衣替え／服装指導／生徒会役員認証式／学級委員長任命式(1年)
- 4日(月) 日本大学創立記念日(120回)
- 12日(火) 2学期中間試験(～15日)
- 15日(金) 生徒による授業評価アンケート
- 20日(水) 芸術鑑賞会

11月 November

- 10日(水) 防災避難・消火訓練
- 16日(火) 修学旅行(A班)(～21日)
- 17日(水) 修学旅行(B班)(～22日)

12月 December

- 6日(水) 2学期期末試験(～9日)
- 24日(金) 2学期終業式／成績会議

1月 January

- 11日(火) 3学期始業式／服装指導／成果テスト(II1・2年／～13日)
- 12日(水) 特別授業開始(I3年／5・6校時／～28日)
- 15日(土) 大学入試センター試験(～16日)
- 25日(月) 推薦入学試験(休講 ～25日)

2月 February

- 1日(火) 全校集会
- 4日(金) 一般入学試験(休講)
- 19日(土) 予餞会
- 28日(月) 賞状授与式・卒業式予行演習

3月 March

- 1日(火) 第58回卒業証書授与式
- 2日(水) 学年末試験(1・2年／～5日)
- 9日(水) 春季代ゼミ特別補習(1,2年希望者／～11日)
- 19日(土) 3学期終業式

平成22年度

クラブ活動の記録

硬式テニス部

東北大会	
女子学校対抗	1位
男子学校対抗	3位
女子シングルス《三連覇》	1位
女子ダブルス	3位
東北大会	
女子団体	1位
女子シングルス	1位
女子ダブルス	2位
東北高等学校新人大会	
女子団体	3位
東北インドアテニス選手権	
女子ダブルス	3位

体操部

東北大会	
男子跳馬	3位・7位
男子あん馬	7位
東北大会	
男子団体総合	6位
東北大会	
男子団体総合	5位

バスケットボール部

東北大会	
男子	2回戦進出

陸上競技部

東北大会	
男子砲丸投	3位
女子走幅跳	4位
東北大会	
男子砲丸投	5位
女子砲丸投	8位
第66回東北高等学校陸上競技選手権	
男子砲丸投	2位
女子砲丸投	6位

水泳部

東北大会	
男子100m平泳ぎ	4位
男子200m平泳ぎ	6位
女子100m平泳ぎ	3位・6位
女子200m平泳ぎ	3位
女子400mメドレーリレー	8位

ラグビー部

東北高等学校新人大会	
Ⅱ部	7位

ライフル射撃愛好会

第65回国民体育大会	
10MS20JM	5位

ゴルフ愛好会

平成22年度全国高校ゴルフ選手権秋季大会	
男子個人	12位



平成22年度 卒業生合格状況

平成22年度卒業生総数493名

日本大学	197名
国公立大学	9名
他私立大学	217名
専門学校	58名
就職	12名

※延べ人数

◆ 日本大学

法	14	国際関係	10	生物資源科	15
文理	17	理工	16	薬	2
経済	19	生産工	12	短期大	2
商	10	工	73	通信教育	2
芸術	5	歯	1	専門学校	1

◆ 国公立大学

千葉大学	1	福島大学	2	山形大学	2
会津大学	1	会津大短大部	2	航空保安大学校	1

◆ 私立大学

早稲田大学	2	明治大学	7	青山学院大学	4
立命館大学	3	成蹊大学	1	東京理科大学	3
東京農業大学	4	芝浦工業大学	1	国学院大学	1
専修大学	5	成城大学	2	東海大学	5
東洋大学	1	東北薬科大学	2	国際医療福祉大学	8
駒澤大学	2	東京電気大学	1	工学院大学	4
津田塾大学	1	フェリス女学院大学	2	玉川大学	3
帝京大学	4	亜細亜大学	4	国士舘大学	6
文教大学	3	聖心女子大学	1	神田外国語大学	1

ほか

平成22年度 退職された先生

※敬称略



[電気科・理科・情報科]
鈴木 守
すずき まもる
平成23年3月退職



[地歴公民科]
秋場 洋海
あきば ひろみ
平成23年3月退職



[数学科]
原 大介
はら たいすけ
平成23年3月退職



[数学科]
山岸 洋輔
やまぎし ようすけ
平成23年3月退職



[数学科]
菅野 達也
かんの たつや
平成23年3月退職



[英語科]
横山 達則
よこやま たつのり
平成23年3月退職



平成22年度郡山市教育功労賞受賞

阿部雄一先生 受賞おめでとうございます。



昨年11月1日(火)午前10時より郡山市役所正庁において、本校をご退職された阿部雄一(元教頭)先生が「郡山市教育功労賞」を受賞されました。

この賞は郡山市の学校教育・教育行政・社会教育・保健体育の振興発展に貢献しその功績が特に顕著である方に贈られるものです。

先生は「多年にわたり、日本大学東北高等学校の相撲部顧問として学生指導に携わる一方、郡山市相撲協会の事務局長・会長、福島県相撲連盟の副会長を務め、市内の小中学生の合同練習を通じた競技力向上に貢献するなど、郡山市の体育の振興に尽くされた功績」が特に顕著であるとして受賞されました。(過去の受賞者は昭和33年度から平成21年度まで598名。平成22年度は12名。)

三世代賞

「三世代賞」は、卒業する生徒ご本人・ご父母様・祖父母君様の三世代に亘る母校愛に敬意を表するもので、平成15年度に設けられました。



平成22年度は、渡辺 花凛さん(白河中央)・畑崎 真里奈さん(高瀬)の2名が、受賞されました。受賞者には、三世代の名前が入った記念の盾と電子辞書が贈られました。平成17年度と18年度に各1名ずつ、平成20年度に2名、平成21年度に3名、そして平成22年度(写真の2名)を合わせると、現在までに合計9名の方が受賞しています。



クラス会だより



電気通信科 昭和三十年卒 二期生
佐久間 博視様

前略

初秋の候を感じさせる那須高原の涼風に迎えられ十月一日恒例の日本大学東北工業高等学校電気通信科(昭和三十年卒、二期生)の待ちにまった年一度の楽しい同級会を御互いの健康を確かめ合うように集い、グリーンタウン那須高原温泉郷のホテル自在荘で行った。

今年の話は勿論、同窓会事務局のご苦勞されて居る『桜朶』復刊について会長より報告、拍手喝采。

そして会は更に盛り上がり、昭和二十八年若き時代の話に思いを馳せ、童心に返り一夜を飲んで、舞って時間を忘れ過ごす学友、最後の締めくくりは「あゝ、美わしの学舎よ 常に幸あれ」を大声で歌って夜も更け

満面の顔で静かに眠りにつく…

機械科 昭和34年卒 七期生 須賀 昭光様

仲秋の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

早速ではありませんが、昭和35年3月(第7期)に卒業した機械科1組の同級会を半世紀ぶりに古希の祝いをかねて、10月7日に市内安積町のホテルバーデンで開催いたしました。

開会に先立ち故人となられました9名の皆様方のご冥福と今回参加されました29名の方の古希をお祝いし、同

級生で鎌倉市在住の浄妙寺住職甲賀丈司君から読経戴きました。その後会を始めましたが、久しぶりに皆さんの元気な姿を拝見し、感動と感激を覚えました。

高校卒業時のアルバムの写真と名前をコピーし、名札も準備しましたが、ほとんどの方が半世紀、約50年ぶりの再開で名前と顔が一致しない年齢となりました。宴会は無礼講で行い、夜の更けるのも忘れ3年後の再会を約束し散会いたしました。(後略)



日本大学東北工業高等学校機械科1組
昭和34年度卒業生 同級会並びに古希祝い

懐かしの母校を訪ねて



第5期 電気科1組卒母校訪問 石井様はじめ15名様

※5月29日(日)に磐梯熱海温泉「栄楽館」にて、第5期卒電気科1組のクラス会が開催されました。翌30日には15名の皆様が母校を訪問して下さいました。幹事の石井様をはじめとする皆様、ありがとうございました。



母校のあゆみを鑑賞



教頭先生の案内による校内見学



1957年卒業記念品「バックル」
第5期電気科1組齊藤一雄様提供

平成23・24年度総会

去る6月25日(土)の午後1時30分より、平成23・24年度同窓会総会が本校のアカシヤ館多目的ホール2階で開催された。各支部支部長をはじめ、本校に勤務する同窓教職員、ならびに母校を懐かしむ当日飛び入りの参加者を含めた約50名が一堂に会した。開会に先立ち、震災後に逝去された前会長小野公一郎様をはじめとする会員の方々のために1分間の黙祷を捧げた。

議長には郡山支部の諸越裕様が選出され、「21・22年度の会務報告並びに決算報告」が承認された。引き続き「23・24年度の会務計画案と予算案」が事務局から提出され、可決された。その他の懸案事項として、会則の一部変更も可決され、それに基づき各支部からの代表1名が理事として役員に加わることとなった。

総会後は1階食堂で懇親会が持たれた。東日本大震災後、最初の同窓生の集いということもあってか、一人ひとりの近況報告の話は震災後の生活に集中したが、各界・各層で活躍されるOBの話に耳を傾け、会員相互の親交を確認し合う時間となった。終わりに、26期卒の佐藤哲哉君のエール受け、校歌と応援歌を参加者全員で高らかに斉唱し会を閉じた。

平成23年 役員・支部名簿・連絡先・会則変更点については、下記ホームページをご覧ください。

お近くの支部へ連絡をご希望の方は、最終ページのはがきまたは、HPの問合せフォームより事務局までご連絡ください。追って最寄りの支部をご紹介しますことができます。

<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>

- 同窓会会報についての質問・ご意見・ご要望等があれば、下記へご記入の上、ご投函ください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

※本用紙に記入された個人情報は会報・案内等を送付する際に使用します。今後継続して、事務局からの案内の送付を希望されない方は、下記の☑印を付して返送もしくはホームページよりご連絡ください。

会報・案内の送付を希望しない。

日本大学東北高等学校同窓会事務局
<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>



事務局よりお知らせ

◎《全国大会出場選手への激励金授与》

7月11日(月)午後1時より校長室にて全国大会に出場する体操部・柔道部・硬式テニス部・陸上競技部・ライフル射撃愛好会の選手たちに会長より激励のメッセージと激励金が贈られました。



◎総会役員・支部・会則等については、ホームページ <http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com> でご確認下さい。

お悔やみ

震災直後に前会長の小野公一郎様をご逝去されました。

また、昨年8月以降今年の6月までに40名の方の訃報が事務局に寄せられております。亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

編集後記

～～暑中お見舞い申し上げます。～～

みなさまお元気にお過ごしでしょうか。こちら郡山は夏本番を迎え、連日暑い日が続いております。

さて、同窓会事務局の仕事に携わるようになってから、かれこれ9年あまり。多くの卒業生の方々とつながりをもてる喜びは何にも代えがたいものがあります。会長の挨拶の中にもありましたように、昨年の夏から多くの反響をいただきました。また震災直後のある日、神奈川から事務局を訪ねてくださった方がいらっしゃいます。その方は仕事の関係で東北のお得意様を巡回した後、仕事が一段落したら必ずかつての同級生の家を訪ね、安否を確認しようと思心に決めていたそうです。学校に行けば何か手掛かりがつかめるのでは

と考えて…。

その後、お友達とは無事お会いされたでしょうか。

ところで、総会での承認を得て今年度から各支部1名の方が理事として役員に加わることになりました。今まで以上に各支部のご意見等を反映させやすくなっていくのではと期待しております。どうぞよろしく願いいたします。

先日の同窓会総会では、私も思いがけず約30年ぶりに同級生と再会することができました。この輪を少しずつ広げていけたらと願っています。

今回投稿下さった方々、関係の皆様様に心より感謝申し上げます。

(事務局T.T)



郵便はがき

料金を受取人払



9 6 3 1 1 9 0

郡山市田村町徳定字中河原 1

日本大学東北高等学校

同窓会事務局 行

差出有効期限
平成24年8月5日迄
です。切手をはらず
にお出ください。



現住所	〒		TEL	携帯	生年月日	男・女
	都道府県					
氏名						
卒業年	※いずれかに○をつけてください。 建設・機械・電気・工業化学 普通・土木・建築					



【個人情報の取り扱いについて】

1 ご提供いただいております個人情報は以下の目的で使用いたします。同窓会が本来の目的とした活動をする場合、また必要と思われる作業を進行する際など合法的な目的のために活用する場合。(同窓会会報、総会通知、クラス会通知、支部会通知、周年募金・寄付活動・会費徴収の発送宛名及び各種リスト等) 同窓会会員名簿の作成。
上記1の使用に当たっては、氏名、フリガナ、郵便番号、現住所、電話番号、勤務先名、勤務先電話番号を利用させていただきます。

2 個人データの第三者提供の制限

ご提供いただいております個人情報の内容は、本人の承諾なしに学校、同窓会関係者以外の第三者に開示、提供することはありません。ただし、以下のような場合は、例外として情報を開示できるものといたします。

法令の規定による場合

ご本人及び公衆の生命、健康、財産等の重大な利益を保護するために必要な場合

3 個人情報管理について

ご提供いただいております個人情報はデータ処理等の業務委託をお願いしております業者において機密保持に万全を尽くすことの確約を得ております。

4 個人情報の開示・訂正・削除について

個人情報は原則として本人に限り、開示・訂正・削除・利用の停止を求めることができます。個人情報の取扱に関する件で何か申し出がある場合は、同窓会(日本大学東北高等学校同窓会(アカシア会)へ左記のハガキ、もしくは下記ホームページよりご連絡ください。

ハガキでの返信もしくはホームページへの返信のなき場合には、承諾していただけたものとさせていただきます。ご了承いただけますようお願いいたします。

お問い合わせ

日本大学東北高等学校同窓会事務局
郡山市田村町徳定字中河原 1
<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>

